

(2020年度)ちゅうでん教育振興助成

高等専門学校部の部(2021年度助成)

報告書資料 No - 11

学校名	奈良工業高等専門学校
活動・研究のテーマ	高専・NPO・企業の協働による貧困問題を「技術」で解決するためのアイデアソン開催

〈活動・研究の意義および活動報告〉

○活動の意義・必要性

日本の子供の相対的貧困率は13.5% (約280万人)といわれています。この課題を解決するには、課題に取り組むNPOや民間団体や行政の支援やサポートだけではなく、地域社会の理解と協力が不可欠です。

そこで、今回の企画では、認定NPO法人おてらおやつクラブと共催で、工学系の高専生・大学院生、研究教育従事者、地元企業、金融機関、市民団体や一般の方々が垣根を超えて集い、“Technology・技術”をキーワードに「子供の貧困問題」について問題を共有し、その解決のしくみを考えあうアイデアソン・ハッカソン(奈良ソーシャルクリエイションキャラバン2021)を2021年9月に計4日間にわたって開催しました。貧困問題を解決するアイデアを創出し、実装可能なレベルまで高めることを目指すと同時に、参加者が子どもの貧困という社会問題を知り、それぞれが連携することで地域社会のネットワークを構築し、「共助」社会構築の一助となることも目的として企画しました。



図1 イベントポスター

○活動報告

まず[第1部]では9月1日、2日の2日間にわたり「アイデアソン・コロナ禍で喫緊する貧困問題に立ち向かえ!」と題したアイデアソンを開催しました。奈良高専の学生やOBの大学生、奈良先端科学技術大学院大学学生といった学生を中心に、地元の金融機関や企業、市民団体や一般の方も交えた65名が参加し、10班に分かれて白熱した議論が行われました。グループの最終発表では、情報不達、孤立化、物資不足、支援情報の乱立、IT環境の整備など子供の貧困問題をめぐる様々な課題に対して、情報分野の知識を用いた技術的な解決案や、企業や金融機関の方々の経験や技術を踏まえたビジネスプランが提案されました。

次に[第2部]では、9月11日、18日の2日間にわたり「技術力×発想力で地域課題をクリアせよ!」と題したハッカソンが行われました。第1部に引き続き学生を中心に、地元の金融機関、市民団体や一般の方も交えて38名が参加し、6班に分かれてビジネスプランの立案やWEBアプリやサービス提供のデモ開発、プレゼンテーションの準備作業が行われました。

4日間を通じてアドバイザーとしておてらおやつクラブスタッフや奈良高専・大学教員やプログラミング技術を有するエンジニア等が適宜各班を巡回し、サポートしました。

なお、緊急事態宣言の延長によるオンライン開催を余儀なくされましたが、そのような状況下においても円滑で、建設的なグループディスカッションが行えるように、奈良先端科学技術大学院大学起業部のメンバーが中心となり、各班の進行役が会場本部に集まって情報や課題を共有しました。またオンラインホワイトボード miro (<https://miro.com/>) を用いるなどの運営面でも、対面実施と遜色ない形で行えるような工夫が施され、活発な議論が行われました。

最終日は、アイデアソンとハッカソンを通じた4日間の集大成として公開イベントが行われました。まず第1部も含めたDay1(第1部1日目)からDay3(第2部1日目)までの取り組みが紹介された後、第2部参加の6班が最終発表を行いました。お寺やアプリ、地元企業などを活用した学童保育サービスや学習サービス、マイナン

バーや家電のセンサーを用いた支援の最適化システム、支援団体や NPO 団体の情報共有サイトなどのアイデアが提案されました。全ての班が実際のデモ画面を作成し、持続可能な収益の仕組みも検討した上でのプレゼンテーションを行い、質の高い最終発表となりました。

最終発表の後に講評・表彰式が行われ、選考の結果、おてらおやつクラブ賞としてマイナンバーを用いた支援の最適化システム「マイナサポートナビ」、CivicTech 賞としてお寺と家庭が助け合う学童保育サービス「BCC supporters」が表彰されました。



図2 会場本部で運営を担った学生企画メンバー（奈良先端科学技術大学院大学学生、奈良高専専攻科学生や OB の大学生）と認定 NPO 法人おてらおやつクラブスタッフ

○活動の成果

本活動の成果について、まず4日間のキャラバンの結果、子どもの貧困問題の解決に資する様々なアイデアが生まれました。今後、生み出されたアイデアを洗練させ、実際の事業化や政策提言に繋げていくことができると考えています。本活動は、課外活動という位置づけではありましたが、高専生にとっては、学生という立場で地域社会が抱える問題を真剣に考える契機になったとともに、普段の授業や実験実習で学んでいる専門分野の知識を高専生らしいアイデア・技術で社会問題の解決に貢献するよい機会になったと思います。

続いて、参加者への事後アンケートを行いました。総合的な満足度調査（4段階スケールで4が最高、1が最低）では[第1部]が、4（59.6%）と3（38.3%）で約97%、[第2部]でも、4（65.5%）と3（31%）で96%を超えました。以上より、参加者の満足度はおおむね高いことが分かります。またオンライン上のアイデアソン・ハッカソンを実現するための様々なツール（オンラインホワイトボード Miro やコミュニケーションツール Slack、ノーコードツール等）の使用やファシリテーションの部分でも満足度や評価も高かったです。

さらに本取り組みは地元の情報発信番組や新聞記事で取り上げられた他、おてらおやつクラブ内の HP や PRTIMES でも記事を掲載し、積極的な情報発信を行いました。活動自体の周知についても積極的に取り組みました。

- ・ KCN情報発信スタジオ Kスタ！（2021/9/21）
<https://www.youtube.com/watch?v=wSJPQvFq6nA&list=PLLSmCnOARxUvo11LQQN9vk4sj6J7PimCV&index=24>
- ・ 奈良新聞 2021年10月19日記事
<https://www.nara-np.co.jp/news/20211019092017.html>
- ・ 認定 NPO 法人おてらおやつクラブ HP 内での活動報告
https://otera-oyatsu.club/2021/09/nscc2021_report/
<https://otera-oyatsu.club/2021/10/nscc/>
- ・ 奈良高専・PRTIMES での報告
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000069.000075419.html>
<https://www.nara-k.ac.jp/contribution/2021/10/2021.html>



図3 オンラインによる最終発表と質疑の様子